

機関番号：14301

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2009～2010

課題番号：21820017

研究課題名（和文）朝鮮時代における荀子学の総合的な研究

研究課題名（英文）The Study on Criticism and Reception of *Xunzi* in the Choson Period

研究代表者 鄭 宰相 (JUNG Jaesang)

京都大学・文学研究科・講師

研究者番号：70552701

研究成果の概要（和文）：本研究は、朝鮮時代における荀子学を総合的に考察することを目指し、書誌学的な調査をはじめ、朝鮮の荀子学関係資料の収集・整理を行い、これをベースに思想史的な検討を加える形で、朝鮮における『荀子』受容の様相を解明するとともに朝鮮思想史の新たな側面を照らし出すものである。

研究成果の概要（英文）：The aim of the project is to comprehensively study the reception of *Xunzi* in the Choson period. In order to achieve this aim, the thorough survey on bibliographies of *Xunzi* texts in the Choson period, and systematic gathering of the related documents were carried out. Based on these surveys, it was conducted the investigation of the historical meaning of those records from the perspective of History of Eastern Asian Thoughts, so as to make clear how Choson thinkers criticized or accepted *Xunzi*'s thoughts. The conclusion of the study sheds light on unknown aspects of Pre-Modern Korean Thoughts.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	820,000	246,000	1,066,000
2010年度	420,000	126,000	546,000
年度			
年度			
年度			
総計	1,240,000	372,000	1,612,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：哲学・中国哲学

キーワード：荀子、諸子学、朝鮮儒学、朝鮮思想、韓国哲学、*Xunzi*、Pre-Modern Korean Thoughts

1. 研究開始当初の背景

朝鮮における荀子学に関する先行研究は皆無に近い。その原因としてまず考えられるのは、資料的な問題である。すなわち、現在知られているところでは、植民地期以前の朝鮮には『荀子』の注釈書が一つも存在しない。

このような現象の背景には、性理学を国家理念とし朱子学以外の思想を容認しなかった朝鮮時代の思想的風土がある。特に孟子の性善説に反対し性悪説を唱えた荀子の思想は、孟子を儒教の道統とみなす朝鮮の儒学者にとっては認め難いものであった。これについては、近年韓国で出版された荀子研究書であ

る『荀子論』(シン・ドンジュン著、2007)が、「朝鮮王朝と荀学の不在」という一節を立て、朝鮮時代に荀子学の不在をもたらした政治史的・学術的背景について詳しく説明している。しかし、本書では朝鮮の荀子学の実態については論及するところがなく、ただその研究の必要性を提起するに終わっている。

以上のような『荀子』注釈書の不在や性理学唯一主義の思想風土から、朝鮮時代には荀子学が不在したのだと安易に結論づけてしまい、そのような認識が思想史の常識としてこれまで疑われもしなかった。しかし、研究代表者の調査によれば、荀子学関係資料は個人の文集や王朝実録などに、序・跋・読書記・引用文の形で少なからず散見される。つまり、朝鮮の「荀子学不在」は、朝鮮時代の荀子学を考察するための資料が収集・蓄積されていなかっただけのことであり、また建前としては荀子学を認めないという朝鮮時代のイデオロギーが働いただけのものといえる。

したがって、朝鮮における荀子学の状況を知るためには、まず荀子学関係資料の調査・収集の作業が急務となる。また、荀子学の受容の様相を的確に捉えるためには、荀子書の流通状況を知るとともに、朝鮮の学者のもっていた荀子観、荀子思想についての理解をも検討する必要がある。

2. 研究の目的

本研究は朝鮮時代における荀子学を総合的に研究するために、①書目と版本などの書誌学的な調査、②朝鮮の荀子学関係資料の収集・整理、③関連資料に対する思想史的な考察を通じて、朝鮮における『荀子』受容の様相を解明するとともに、朝鮮思想史の新たな側面を明らかにする。

3. 研究の方法

(1) 書誌学的な研究

朝鮮で作られた『荀子』の刊本・写本の存在、朝鮮の学者が目にした『荀子』テキストの種別やその流布状況を明らかにするために、朝鮮時代の書目と書誌、また現代の韓国をはじめ日本・中国・台湾・フランス・イギリス・アメリカで刊行された蔵書目録について調査を行い、それを踏まえて韓国・日本・台湾の図書館・研究所・博物館などに所蔵されている『荀子』版本・写本および関連書物について実査を行った。調査を行った機関としては、韓国はソウル大学校奎章閣・韓国学中央研究院蔵書閣・国立中央図書館・国会図書館・ソウル大学校中央図書館・延世大学校

中央図書館・高麗大学校図書館・成均館大学校中央図書館・慶熙大学校中央図書館・誠庵古書博物館、日本は東洋文庫・蓬左文庫・天理大学図書館・東北大学図書館・大阪市立図書館、台湾は中央研究院歴史語言研究所傅斯年図書館・国立台湾大学図書館である。

(2) 朝鮮の荀子学関係資料の収集・整理

各種の文献に断片的に散在する荀子関係記事を調査し、収集・整理を行った。調査対象となった文献は個人文集類、朝鮮王朝実録などの史書類、経学関係の著述などであるが、朝鮮の学者の著述の大半は死後刊行する文集に収められた形で存在するので、主に個人文集類を対象として作業を行った。文集は1986年から民族文化推進会で刊行されている『韓国文集叢刊』を底本とした。

(3) 思想史的な研究

(1)(2)の基礎的な作業で得られた知見を総合し、主題別・時代別・学者別・学派別に『荀子』がどう読まれたかを検討し、朝鮮における『荀子』受容の様相、荀子学のあり方、朝鮮思想史における荀子学の展開やその思想史的な意義について考察した。

4. 研究成果

【平成21年度】

平成21年度は以下の二つの作業を行った。

(1) 書誌学的な研究

朝鮮時代から現在に至るまでの、韓国・日本・中国・台湾・フランス・イギリス・アメリカで刊行された朝鮮本関係書目(80種以上)および書誌史料を調査するとともに、韓国・日本の各図書館において版本調査を行い、朝鮮で作られた『荀子』の版本・写本の存在、および朝鮮の学者が目にした荀子書の種別とその流布状況を考察した。

調査したところ、『高麗史』(巻八)には、文宗十三年(1059)に知南原府事試礼部員外郎李靖恭が「孫卿子書九十二板」を新雕・進呈し、秘閣に保蔵されたとの記事が見える。従来、文献上の記録で最古の版本とされたのは、北宋の熙寧元年(1068)に国子監で開版された「熙寧監本」であるが、この『高麗史』の記録によるかぎり、それより先だった『荀子』の版本が存在していたことになり、従来の説に訂正が必要となる。

しかし、各機関に所蔵されている版本の調査で実際確認された荀子書は明版・清版の中国版本であり、朝鮮で作られた『荀子』版本は確認されず、写本1種が確認された。朝鮮本(韓本)のみを載録する書目をみると、子部の儒家類は中国撰述の性理学関係書と朝鮮の学者による儒学関連著述がその大部分

を占め、宋代以前の中国撰述の儒家書は皆無に近く、子部の他の類目においても墨子・韓非子のような諸子書は見あたらない(道家・兵家書を除いて)。こうした傾向から、思想部門において朝鮮時代の出版事業は、主として性理学関係書物の刊行を中心に行われたことがうかがわれ、朝鮮時代の知識人が一般的にみた『荀子』テキストは、明・清から輸入された版本、ないし朝鮮後期に広く流布された諸子書の節略本(『百家類纂』など)であったと考えられる。

(2) 朝鮮の荀子学関係資料を収集・整理

荀子書の種別や流通に関してはまだ不明な点が多いが、文集や朝鮮王朝実録などには荀子や荀子書に対する論及が、序・跋・読書記・引用の形で少なからず散見される。これらの記事は朝鮮時代における荀子像や荀子書の受容様相を知るために重要であり、当年度は荀子関係資料の収集・整理作業も並行して進めた。その結果、荀子の性悪説に対する批判的な記事が多数にのぼるが、立論のための引用や訓詁のための典拠として荀子書を多く用いることが確認された。

【平成 22 年度】

平成 22 年度においては、版本調査を通じて朝鮮における荀子書の流通状況を解明するとともに、朝鮮荀子学関係資料を収集・整理し「朝鮮荀子学資料集成」を作成した。

まず、版本調査では前年度の目録調査を踏まえて韓国・日本・台湾の図書館・研究所・博物館など各機関に所蔵されている『荀子』版本を調査し、書誌学的な研究を行った。調べたところでは朝鮮で作られた『荀子』の版本・写本は確認されず、現在韓国に残っているのは中国と江戸の版本のみである。中国版本の場合は明版をはじめ清人注釈書の版本が多数あり、江戸の版本は主に旧韓末か植民地時代に伝入したものと判断される。このような朝鮮刊本の不在は、朝鮮における諸子書刊行の実態の一端を示すものと考えられる。朝鮮時代の学者は節略本を通じて諸子書を読んでいる例もみられるので、本年度の書誌調査においては、朝鮮における荀子書の受容様相をより正確に知るために、単行した荀子書のみならず、類書や節略本(『百家類纂』『諸子品節』『諸子奇賞』など)にまで調査の対象を広げた。

また、昨年度に引き続き、個人の文集・朝鮮王朝実録・経学関係著作などから荀子関連記事を収集・整理し、「朝鮮荀子学資料集成」としてまとめた。資料集成では関連記事を主題別に分け、時代順に整理することによって朝鮮荀子学の実態を解明するための基礎資料を提供しようとした。本作業を通じて、朝鮮時代の荀子思想の理解および『荀子』受容

様相に対する新たな知見が得られた。すなわち、孟子の性善説を「道統」とする朝鮮の学者は荀子の性悪論に対しては厳しい批判を展開するが、一方、政治・経済・法律・軍事・農業などの諸分野にわたる経世論においては荀子思想に一定の評価を与え、礼学や典章制度などの名物考証においても『荀子』は多く引用されていることが判明された。特に尹ヒュ(1617-1680)・李 瀾(1681-1763)のような、朝鮮後期の実学者たちの改革的な経世論に荀子の思想が積極的に取り込まれていることは注目に値する。その詳細は“Xunzi and Pre-Modern Korean Thinkers”との題目で、アメリカの学者である Eric Hutton 氏編の *Dao Companion to Xunzi* の一章として掲載される予定である。

以上の成果により「朝鮮の荀子学」という新しい研究分野を展開し、朝鮮における『荀子』受容の様相の解明とともに、朝鮮思想史をよりダイナミックに捉えることができると思われる。さらには、荀子学の地域的な展開という観点からいえば、伝統中国や江戸の荀子学との比較を通じて、比較思想的な研究へと繋がる新たな知見が得られるものと期待される。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 2 件)

1. 鄭宰相、「『荀子』の「類」概念から見た中国古代の礼治と法治」、『中国古代史論叢』第七集、立命館東洋史学会、pp. 133-170、2010、査読有

2. 鄭宰相、「『荀子』大一考」、『中国古代史論叢』第六集、立命館東洋史学会、pp. 31-52、2009、査読有

[学会発表] (計 1 件)

1. 鄭宰相、「性 自命出」之性情論(中文)、伝統中国哲学的知識論問題之当代省思国際学術研討会、台湾大学、2010 年 9 月 9 日

[図書] (計 1 件)

1. Jung, Jaesang. “Xunzi and Pre-Modern Thinkers.” In *Dao Companion to Xunzi*, ed. Eric Hutton, Springer, 2012

[産業財産権]

○出願状況 (計 0 件)

○取得状況 (計 0 件)

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

鄭 宰相 (JUNG Jaesang)
京都大学・文学研究科・講師
研究者番号：70552701